

自律貢献

2026年（令和8年）10月16日
福山市立向丘中学校
校長 高田 佳明
学校だより《10月》



イロトリドリ

文化祭が終わった後に思うこと

文化祭も終わり、また静かな学校に戻りました。少し寂しいような、そんな気もしています。さて、この度の文化祭では、主には合唱コンクール、3年有志の劇、吹奏楽部の発表ということで、特に合唱は初めての取組でした。みなさん感想はいかがでしょう。

私は今回、合唱をしてとてもよかったと思っています。というのも、合唱は

〇「他者と協働する」体験の共有

一人一人の声は小さくても、互いの声を聴き合い、音色を溶け合わせることでしか生まれない響きを作ります。自分のパートだけでなく全体のバランスを考える経験が育まれます。

〇日常の姿が表出する鏡

練習態度、アドバイスの受け止め方、上手いできない時のぶつかり合いや支え合いなど、日頃の学級の人間関係や生活態度がそのまま合唱のプロセスに反映されます。

〇最優秀賞は手段、目的は学級の成長

コンクール等で「最優秀賞をとること」自体が目的化しがちですが、本来の意義はそこに至るまでの過程（互いを認め合う、励まし合う、粘り強く取り組む）にあります。

〇自己有用感と居場所づくり

歌が苦手な生徒も、指揮、伴奏、黒板のパート表作り、歌詞の解説、アドバイスなど、何らかの形で「自分が必要とされている役割」を見出しやすくなります。

等、学級づくりにおいてとても効果的だからです。

さて、当日の姿だけを見ているとわかりにくいのですが、この間、どの学級も色も、練習においては、一生懸命取り組む生徒と練習に気持ちが向かない生徒との間で溝が出来たり、人前で歌うことが苦手だったり、曲が難しかったり、そもそも合唱をするということに否定的だったり、本当に実態は様々だったように思います。

しかしながら、いざ本番を迎えると、普段おとなしい生徒が大きな声を出していたり、苦手な生徒も恥ずかしがらず指揮者の方を向いて頑張っている姿や、得意な生徒・歌うことが好きな生徒が、率先して声を出してみんなが歌いやすい雰囲気を作ったり、クラスの仲間のために自分を合わせてみんなで一つの合唱を完成させようとする姿に本当に感動しました。

また、こ
施するにあ
前日は準備
ことで、体
を引いたり
出したり、

やっぱり“学校教育目標”は
感謝感動の心と貢献する心を
大切に持ち続けることができる生徒の
育成

の文化祭を実
たって、特に
をするという
育館にシート
パイプ椅子を
さらに生徒の

椅子を並べるにいたってはメジャーを用いて等分に整えたりするなど、本当に細やかな気配りをしてくれました。よく見ていると、吹奏楽部の重い楽器を女子部員が運ぼうとしていたことに気づいた男子生徒が、そっと手を貸して交代し校舎4階と体育館を何往復もする姿も見られました。そういうことが自然にできる、本当に素晴らしいことだと思います。

大運動会が終わった後にも伝えましたが、この学校の生徒全員が右肩上がりに成長し、10年後20年後に自分の希望や夢を実現してほしいと切に願っています。文化祭が終わった今、今度は自分で目標を設定し、その達成に向けて自分を合わせていかなければ、また元の姿に戻ってしまいます。せっかく大運動会や文化祭で高まった学級や自分を、一歩踏み出さないことで“残念なクラスや私”にすることなく、落ち着いてゆっくり自分自身を見つめ直し、明日の自分につなげることを期待しています。

感動が 感謝に そして貢献へ

「やればできる。俺たち私たちにだってできる！」の続き



ことを“生徒の姿”で表現したいと考えています。
今回のことは、本校の“学校教育目標”達成に迫った瞬間でもありました。本当に誇りに思います。

前回の学校だよりで「人命救助」の文章を掲載しましたが、その後、関係した生徒の名前がわかりました。早速、教頭先生が福山市教育委員会に報告し、藤井 康弘 教育長 から「いいね！福山っ子」賞をいただきました。私は日頃から、本校の教職員が取り組んでいること、頑張っていること、大切にしている

お知らせ

美術科の 井出 愛音 先生が、しばらくの間お休みすることとなりました。この間、2年3組は 村上 宜嗣 先生が担任します。